

平成30年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,486	8,849	4,509	4,340	△ 13	△ 27
2 千 石	4,031	6,895	3,454	3,441	5	1
3 内 山	5,608	7,781	4,109	3,672	△ 21	△ 26
4 大 和	3,403	6,684	3,309	3,375	7	△ 8
5 上 野	7,269	15,375	7,639	7,736	11	7
6 高 見	7,382	13,536	6,502	7,034	5	△ 5
7 春 岡	6,845	10,918	5,730	5,188	△ 19	△ 13
8 田 代	11,583	22,081	10,676	11,405	2	5
9 東 山	10,334	19,458	9,587	9,871	0	1
10 見 付	4,409	8,190	4,125	4,065	111	109
11 星 ケ 丘	3,533	6,897	3,124	3,773	7	13
12 自 由 ケ 丘	3,529	7,208	3,284	3,924	6	3
13 富 士 見 台	6,464	15,396	7,134	8,262	2	△ 1
14 宮 根	3,817	8,276	3,957	4,319	11	6
15 千 代 田 橋	3,678	8,526	4,007	4,519	3	△ 11
千 種 区 計	87,371	166,070	81,146	84,924	117	54
H29.10.1	86,675	166,027	81,166	84,861	103	73
対 前 年 比	696	43	△ 20	63	14	△ 19
名 古 屋 市	1,102,535	2,320,361	1,145,763	1,174,598	645	215
愛 知 県 (H30.9.1)	3,192,509	7,539,212	3,772,137	3,767,075	2,351	624

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	92	119	△ 27	931	850	81

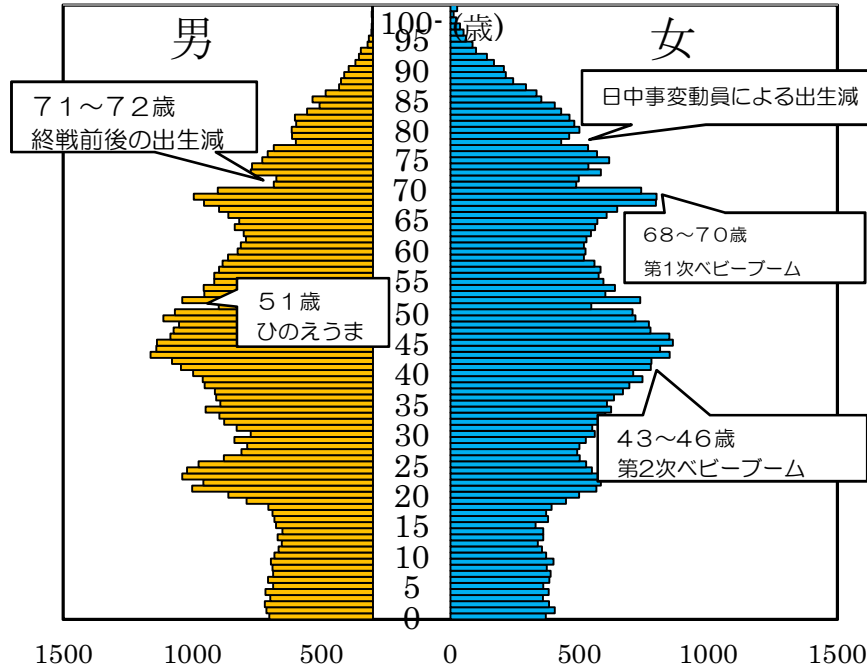
【参考】	国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
	昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
	昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
	平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
	平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

平成30年10月1日現在の千種区の世帯数は対前月比117世帯増の87,371世帯となっており、人口は対前月比54人増の166,070人となっています。今回は平成29年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。

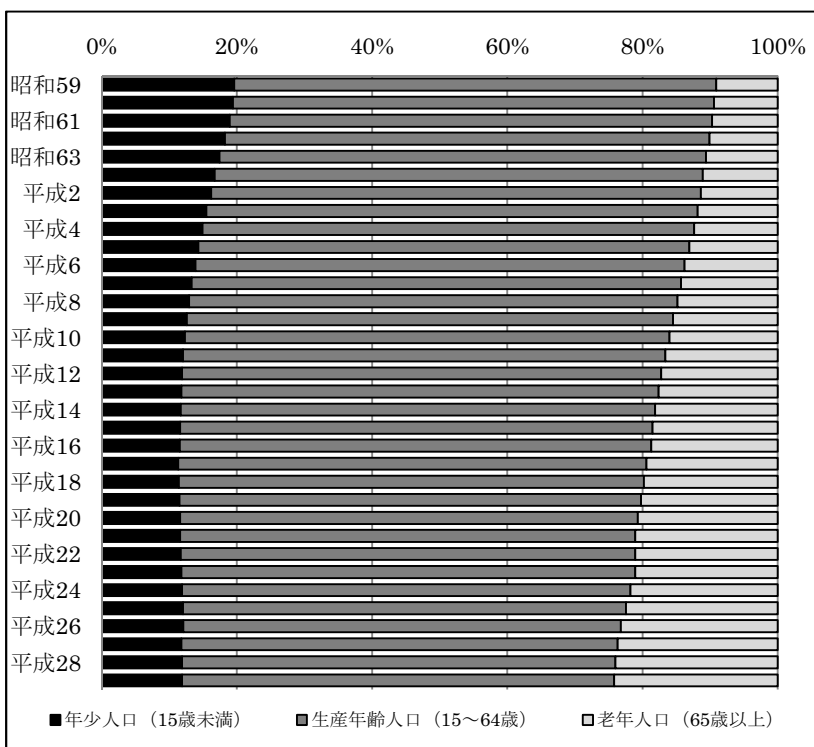
図1:千種区の年齢各歳別人口構成(平成29年10月1日現在)



平成29年10月1日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口（人口ピラミッド）で見ると、78歳および71～72歳の年代は日中事変や第二次世界大戦の影響によって、また51歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、68～70歳は第1次ベビーブームの影響によって、43～46歳は第2次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。千種区の人口ピラミッドは、この2回のベビーブームの影響に伴う2つの大きなふくらみを持つ「ひょうたん型」となっています。

図2: 千種区の年齢3区分別人口の割合の推移(各年10月1日現在)



昭和59年から平成29年の各年10月1日現在の年齢3区分別人口の割合の推移を見てみます。昭和59年と平成29年を比較してみると、年少人口（15歳未満）の割合は7.7ポイント、生産年齢人口（15～64歳）の割合は7.4ポイント減少したのに対し、老年人口（65歳以上）の割合は15.1ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成17年まで減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成7年をピークに減少しています。老年人口の割合は昭和59年以降一貫して増加を続けています。